

**主 題：親に託された最も大切な務め**  
**聖書箇所：エペソ人への手紙 6章4節**

データとしては少し古いのですが、文科省が「子どもの育ちを巡る現状などに関するデータ集」を出しています。その中の一つがアンケートですが、「家庭教育力の低下について」、低下していると答えた割合は全体の7割だと言います。その理由ですが、挙げられた理由のうちで最も高かったのは、「過保護」、甘やかせ過ぎや過干渉の親の増加、だから、子どもに教えるべきことが教えられていないと。2番目に挙げられたのは、テレビや映画・雑誌などメディアが子どもに及ぼしている悪い影響です。それゆえに、家庭が子どもにしっかり教えることができている。三つ目はとても関心の深いことでしたが、子どもへの教育やしつけの方法が分からない親の増加ということで、約50%近い人たちが挙げています。だから、親は家庭でしっかり教えることができないと言います。ちょっと考えさせられる統計です。確かに、それから年数が経っていますが、子育ての悩みや不安は解消されていません。今でもどうすればいいのか分からない親がたくさんいます。ですから、書店には子育てに関する本がたくさん並んでいます。また、最近のことですが、テレビでルソーの「エミール」から子どもの教育について放映するのです。関心があるからです。知りたいからです。

でも、子育てについて知りたければ、子どもを、もちろん、私たちも含めて、私たちすべてを造られたお方に問うてみることです。創造主なる神に問うてみることです。この方だけがどうすべきかを私たちに教えてくれます。この方だけに私たちは耳を傾けるべきです。なぜなら、この方がお造りになったからです。また、私たちが覚えておきたいことは、子どもは神から私たち親に託されたものだという事、決して、私たち親の私物ではないということです。ですから、私たちは子どもを育てていく上で、神が何を望んでおられるのかを知らなければならないのです。

今朝、私たちは親に、また、家庭に託された最も大切な責任の一つ、「子育て」について二つの神からの教えをごいっしょに見ていきたいと思えます。テキストは、皆さんよくご存じの「エペソ人への手紙6章4節」のみことばです。そこには「父たちよ。あなたがたも、子どもをおこらせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。」とあります。初めに「してはならないこと」、そして、「すべきこと」が記されています。

#### A. 子育てにおいて避けること

それは「子どもをおこらせること」だと言います。もちろん、これは子どもをおこらせないために子どもの機嫌を取るようという命令でないことは明らかです。たとえば、子どもの機嫌を損ねないように、子どもが喜ぶことだけをしようとすれば、大變わがままなモンスターを作り上げてしまいます。そのようなことを教えているわけではないことは明らかです。今からこの教えを見ていくのですが、ここで皆さんに約2000年前、パウロたちの時代のその背景を知っていただきたいと思えます。このみことばは今21世紀の私たちに直接的に送られているものではありません。2000年前、パウロがエペソにある教会のクリスチャンたちに送ったのです。「子どもをおこらせてはいけません。」というパウロのメッセージ、これは当時の人々に大變な衝撃をもたらしました。

というのは、その当時、子どもたちはみな例外なく絶対的な父親の権力下に置かれていました。そのことについて神学者ウィリアム・バークレーは次のように説明しています。「その当時、子どもが生まれるとその子は父親の足元に置かれた。もし、父親がかがんでその子を抱き上げるなら父親はその子を承認し、その子を育てることを願っていることの意味表示であった。しかし、もし、父親が背を向けて立ち去るなら子どもの承認を拒み、その子は間違いなく捨てられることを意味する。」と。子どもが物のように扱われたのです。また、こうあります。「子どもたちは大抵ローマの広場に捨てられ、子どもたちは広場から拾って育ててくれる人の所有物となった。これらの人たちは子どもを育てて奴隷として売ったり、ローマの売春宿に困うために夜の間に子どもを拾い集めるのである。」と。これがその当時の背景だと言います。こういう社会にあってパウロはこのようなメッセージを子どもたちに送ったのです。そのことが6：1-3に記されています。そして、4節で「父たちよ。…」と教えるのです。

#### 1. 子どもたちへのメッセージ 6：1-3

今言ったように、6：1-3は子どもたちへのメッセージです。

##### 1) 両親に従うこと 6：1

「1 子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。…」、先に言ったように、この教えを受けた子どもたちにはこれは大變衝撃的なメッセージでした。なぜなら、今見て来たように、その当時の多くの父親は

子どもたちを人として扱っていません。そんな父親の言うことに従うのか？とそのように思った人たちもたくさんいたでしょう。でも、パウロはこう言います。「これは正しいことだからです。」と。両親に従うことは主の前に正しいことである」と言います。つまり、主なる神がお喜びになることだと言います。そして、両親に従う者たちは主を愛している者たちだと、そのようにパウロが教えるのです。

たとえば、主イエス・キリストがこの地上におられたとき彼の歩みはどうだったか？ルカ2：51には模範として「それからイエスは、いっしょに下って行かれ、ナザレに帰って、両親に仕えられた。母はこれらのことをみな、心に留めておいた。」と書かれています。ですから、みことばが私たちに教えていることは、子どもたちは親に従うということ、それが神のみこころだということなのです。

## 2) 両親を敬うこと 6：2、3

その後で次には「両親を敬う」ことが教えられています。2節「あなたの父と母を敬え。」これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。ただ義務的に従うのではなく、敬う心をもって両親に従いなさいというのがこのメッセージです。初めに言ったように、このメッセージを聞いた子どもたちは大変な驚きを覚えたに違いありません。パウロが言うことは「どんな親であって、その親を愛し敬い彼らに従いなさい」です。「私の親はイエスのことを知りませんから…」、それでも「子どもたちは従いなさい」と教えます。「私はもう高校生になったから…」、いいえ、子どもである以上、従って行くのです。もちろん、皆さんご存じのように、私たちは神に従うことが第一です。

聖書は確かに、子どもたちは両親に従うこと、しかも、彼らを敬うこと、その思いをもって彼らに従うことを教えています。なぜなら、これは「神の戒めである、神の命令だ」とパウロは言います。「これは第一の戒めであり、」と、旧約の時代から教えられて来た神の命令なのです。ですから、この命令を心から守ろうとする者たちは、心から神を愛している者たちであり、神を敬っている者たちです。言い方を変えるなら、神を愛し敬っているから、両親を敬い両親に従おうとするのです。だから、そこに祝福があると教えます。3節に書かれている通りです。「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする」という約束です。」と。

私たちが一時的な幸せでなく、永遠に続く祝福を手にしようとするなら、それを持っておられる神の許に行くべきです。神だけがそれを私たちに与えてくださるからです。それをいただいた者として、私たちは本当に日々喜びをもって感謝をもって生きることができるのです。何があっても満足をもって…。そのような幸せをいただいた者として、幸せな日々を過ごしていけるのです。ここに「地上で長生きする」ということばがあります。つまり、神の祝福というのは「神が定められた人生を罪によって縮められることがない」ということです。皆さんもご存じのように、聖書の中には多くの信仰者たち、また、そうでない人たちが罪のゆえにその人生を短くされた例がたくさん出て来ます。ですから、ここで言われていることは、神がその人を祝してくださるゆえに、神が定められた人生をフルに満足して生きることができるということなのです。

親子の間を見ても、そこにはすばらしいハーモニーが存在し、そのすばらしい関係を楽しみながら過ごしていくことができます。このように私たちはこの地上の生活を歩むことができるということなのです。だから、子どもたちに対して、あなたの両親を心から敬いながら従うことが大切だと言うのです。この約束は旧約の時代から新約の時代を通して神の教えであり、神の命令です。少しも変わっていません。

## 2. 両親へのメッセージ 6：4

子どもたちへのメッセージを記した後、今度は、両親へのメッセージへと話を進めていきます。それが6：4です。「父たちよ。あなたがたも、子どもをおこらせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。」、

### 1) 父たちよ

「両親への教え」と言いましたが、4節には「両親たちよ。」とは記されていません。「父たちよ。」と書かれています。1-3節では「子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。…」とあり、「…父に従いなさい」ではありません。ですから、文章の流れから見てこの4節の「父たちよ。」には母親が含まれていることは明らかです。確かに、ここで使われている「父たちよ」のギリシャ語はヘブル11：23でも使われています。モーセのことです。エジプトでユダヤ人の子どもがどんどん増えていくので、そこで下った命令は「男の子が生まれたならその子を殺すように」でした。ところが、モーセの両親は産まれたモーセが大変美しいのを見て彼を生かそうとするのです。そのやりとりがヘブル人への手紙11章に出て来ます。11：23にこのように書かれています。「信仰によって、モーセは生まれてから、両親によって三か月の間隠されていました。彼らはその子の美しいのを見たからです。彼らは王の命令をも恐れませんでした。」とあり、ここに「両親によって」と訳されていることばとエペソ6：4の「父たちよ」が同じことばなのです。

では、なぜ、ここで「両親たちよ」と言わなかったのか？パウロが敢えてここで「父たちよ」と言ったのは、家庭における長がいったいだれなのか？家庭にあってだれが責任者なのかということをはっきりさせたのです。それは父親、男性です。それを強調してパウロはここで「父たちよ。」と言ったのです。

## 2) 子どもを怒らせない

この「父たち」、両親たちへの教えですが、内容を見ると、ここにあるのは「子どもをおこらせてはいけません。」という命令です。この「おこらせる」とは「子どもが腹を立てる」という意味があることばを使っています。ここでパウロが教えたことはコロサイ 3 : 21でも教えています。「父たちよ。子どもをおこらせてはいけません。彼らを気落ちさせないためです。」、この「おこらせる」とはこういうことです。

これは多くは悪い意味で使われています。「激高する、怒らせる」という意味で、激しく感情がいきり立つような状態です。つまり、ここで使われていることばはこのような意味です。「人の心の奥底に動くことのない、消えることのない怒りを据える」ということです。子どもたちの心の中に、親に対する怒り、すぐには動かない消えることのない怒りを据えてしまうことです。子どもの心の中に親への反発や酷い怒り、苛立ち、罪深い憤りを起こさせること、そのような思いを持ち続けること、そういうことがあってはならない、というのが「子どもをおこらせてはいけません。」と教えていることの意味です。

しかも、「おこらせてはいけません。」というのには現在形の命令です。ギリシャ語において、このことばの前に否定語が付くと、それは習慣を表します。つまり、習慣的に子どもを苛立たせたり、習慣的に子どもが親に対して怒りを持つようなことはあってはならない、そういうことをしてはならないというのがこの箇所では教えられていることです。皆さん少し考えてみてください。家庭にあって、子どもたちの心の中に親に対する消すことの出来ない「怒り」があると、そういうことが決してあってはならないと言います。では、どうしてそのような怒りが子どもたちの心の中に植え付けられるのでしょうか？今から二人の人物を見ていきます。恐らく、それが皆さんの理解に役に立つと思います。

### ☆子どもたちの怒りの原因

・**偏愛** : その一人はヤコブです。彼がしたことは、12人の子どもたちの中のある一人を特別に愛しました。「偏愛」です。そのヤコブが愛したのは「ヨセフ」です。その結果、他の兄弟たちはどのように思ったのか？聖書はそのことを教えています。創世記 37 : 4に「彼の兄たちは、父が兄弟たちのだれよりも彼を愛しているのを見て、彼を憎み、彼と穏やかに話すことができなかつた。」と書かれています。ヨセフのことを寵愛しているヤコブ、兄弟たちは「なぜ、父親はヨセフばかり愛するのか？なぜ、彼だけがいい着物を着ているのか？なぜ彼だけが…？」と心の中に怒りがあったので、ヨセフと「穏やかに話すことができなかつた。」とあります。そういうことをしてはならないという例です。

・**愛の欠如** : 二つ目に、「愛の欠如」も実はこのような結果を招いてしまうということを見ます。子どもたちを偏愛するだけでなく、愛を欠いた場合です。たとえば、子どもたちの罪を赦さないこと、これも子どもたちの心の中に怒りを植え付けてしまうこととなります。旧約聖書に「アブシャロム」という人物が出て来ます。彼はダビデ王の三男です。彼は後にヘブロンという町で、王の即位宣言をし、父親のダビデと戦いを交えます。もちろん、彼はその後、ヨアブによって殺されます。悲劇です。親子の間でこのような争いが生じたのです。

確かに、そのことが聖書に記されていますが、私たちが知りたいのは「では、どうしてそんな関係になったのか？」です。なぜ、息子が父親のダビデに敵対するようになったのか？実は、アブシャロムには「タマル」という大変美しい妹がいました。そのことはサムエル記第二に記されています。彼女は異母兄のアムノン、アムノンはダビデの長子ですが、彼に強姦されます。サムエル記第二 13章にそのことが書かれています。そこで、アブシャロムはこのアムノンを殺してタマルの復讐をします。アムノンを殺したアブシャロムはダビデを恐れて3年間ゲシュルという町に逃げていきます。これは今のガリラヤ湖の東側に当たります。そして、ツェルヤの子ヨアブの仲介によってエルサレムに戻ることが許されたアブシャロム、父親であるダビデ王のいるエルサレムに3年ぶりに戻って来るのですが、エルサレムに着いてから2年間、ダビデは彼と話そうとはしないのです。

Ⅱサムエル 14 : 23-24 「:23 そこでヨアブはすぐゲシュルに出かけて行き、アブシャロムをエルサレムに連れて来た。:24 王は言った。「あれは自分の家に引きこもっていなければならない。私の顔を見ることはならぬ。」それでアブシャロムは家に引きこもり、王の顔を見なかつた。」、3年間王を恐れて北に逃げました。そして、やっと父親のところに戻って来ました。その許可が下りたのです。でも、エルサレムに戻ったアブシャロムにダビデは顔を合わせることは2年間もなかつたのです。14 : 28 「アブシャロムは二年間エルサレムに住んでいたが、王には一度も会わなかつた。」。

どうしてダビデはアブシャロムに敵意を抱いたのか？それはダビデ自身の行動に拠るのです。この一連の出来事を今から見ますが、罪を犯したアムノンが殺されます。大変悲しい出来事です。家族の中でそのようなことを起こったのです。それでいてダビデはなぜ2年もの間、エルサレムに戻って来たアブシャロムの顔を見ようとしなかったのか？聖書はそのように教えています。Ⅱサムエル14：1に「ツェルヤの子ヨアブは、王がアブシャロムに敵意をいただいているのに気づいた。」と書かれています。アブシャロムは自分の妹が犯されたので、彼はアムノンに怒りを持つのです。そして、アムノンを殺すのです。ところが、ダビデはアムノンではなくアブシャロムに対して敵意を抱きます。ですから、彼は一度もアブシャロムの顔を見ようとしなかったのです。恐らく、このことはアブシャロム自身も気付いたのでしょう。なぜ、父は私のところに一度も来てくれないのか？なぜ、顔を見せてくれないのか？なぜ、一度も

私を呼んでくれないのか？恐らく、彼の中には「父は私よりもアムノンを愛している」という思いがあったのでしょう。まさに、偏愛です。「アムノンが罪を犯したのに彼をさばくことをしないで私に対して敵意を抱くなんて…」と、こういった理不尽な仕打ち、アブシャロムの心の中には父に対する怒りが芽生え、2年もの間、アブシャロムを赦すこともなく、愛を示すこともなかった父ダビデに対して、憤りが増して怒りが深まったのでしょう。それが息子アブシャロムが父ダビデを責め、王位から失脚させようとする敵意を抱くようになった原因でしょう。

悲しいことに、今私たちはヤコブにしてもダビデにしても、すばらしい人物でもこのような失敗をしていたことが聖書によって知ることができます。皆さん、私たちが覚えなければいけないことは「私たちには大きな責任がある」ということです。子どもを託されている皆さん、私たちはその責任をしっかりと果たすことが必要です。そのことを私たちは先ずしっかりと覚えなければなりません。「何とかなる…」ではありません。私たちにはやらなければならない働きがあるのです。それは「子どもたちを正しく育てる」という責任です。

## B. 子育ての中核・核心

もう一度、エペソ6：4を見ると後半にこのように書かれています。「…かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。」と。まさに、これは子育ての中核です。その核心の部分を見ていきます。

### 1. 子どもを育てなさい

この「育てなさい」も現在形の命令です。継続してそれを行いなさいと言います。この「育てる」ということばは「栄養を与えて成人に育て上げていく」という意味があることばです。だから、からだに栄養となるものを与えて、子どもたちが成長するようにその助けをしていくという意味ですが、この働きを継続して行うようにと教えたパウロは、二つの点に注意してそれを行いなさいと教えています。まさに、「育て方」のことです。「主の教育と訓戒によって」と言います。

### 2. 育て方

1) 主の教育 : この「教育」ということばは「訓練、しつけ、教育、薫陶」という意味をギリシャ語の辞典は定義しています。彼らがすばらしい人と成長していくために、様々な徳をもって感化していくこと、薫陶、そのような意味があるのです。ですから、親としての責任は彼らをしっかりと訓練して教育していくことです。私たちは神のことばをもって子どもたちに真理を教えていきます。なぜ、あなたが存在しているのか？私たちはどこから来たのか？なぜ、私たちのからだはこうして機能しているのか？人は死を迎えた後どうになってしまうのか？私たちが知りたいと思う真理が聖書に記されています。それらを子どもたちに教えていくのです。何を神が望んでいるのか？どのように生きていくべきなのか？それも聖書が教えているように教えていくのです。

そして、子どもたちがその教えから外れたときに、外れそうになったときに、私たちは子どもたちに対してその間違いを指摘して、彼らを正しい道へと引き戻していくのです。みことばはこう言います。箴言22：6「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。」

子どもたちをしっかりと教えるなら、子どもたちが年老いてもその正しい道から離れないと言います。もちろん、そのためには教えるだけではなく、教えられたことから離れてしまった、真理から逸れてしまった子どもたちには矯正することが必要です。そのときに、聖書は私たちに「懲らしめが必要だ」と教えます。

箴言13：24「むちを控える者はその子を憎む者である。子を愛する者はつとめてこれを懲らしめる。」

箴言22：15「愚かさば子ども心に繋がれている。懲らしめの杖がこれを断ち切る。」

ですから、確かに、みことばは私たちに「懲らしめること」、つまり、必要であればスパンキングをすることも…。何のためにそれをするのか？それによって子どもたちが神に喜ばれる者へと成長していくためです。

皆さんに見ていただきたいのは、ここに「主の教育」と書かれていることです。この「教育」ということばは今見て来たように「訓練」と訳せるし「しつけ」とも訳せますが、敢えて、訳者は「教育」ということばを使っています。それは私たちが為すすべてのこと、矯正に至るまで、これはあくまで私たちが子どもたちを教育するためです。ですから、私たちは子どもたちが間違ったとき「それは間違っている」と子どもたちが分かるように教えていくことが必要なのです。教えるというのはそういうことでし

よう。「私は話したけれどあなたが分かっていない。あなたの問題だ。」と言うなら、それはおかしなことです。「教える」と言う以上、その子が理解して初めて教えたことになるのです。

ですから、この「懲らしめ、しつけ」というのは、決して自らの怒りや憤りのはけ口として用いてはならないのです。注意していないと私たちは感情的になって、その感情が良くない行為をもたらしてしまいます。私たちが怒りをぶつけて子どもたちに懲罰を与える、懲らしめを与える、スパニングをする、それは暴力と言われても仕方ありません。ですから、子どもたちを黙らせるために、子どもたちに言うことを聞かせるためにやるというのは問題です。私たちがするのは子どもたちが正しい道に戻って来るためにです。そのようにみことばは教えています。あくまで、これは「教育」なのです。そのためにはいつも私たちの感情をチェックする必要があります。怒りがあつてすることは間違っています。祈りをもって神の助けをいただきながら、神の知恵をいただきながらこの働きをしなければなりません。あくまで、子どもたちが正しい道を歩み続けて行くために、曲がった道から正しい道に戻って来るための教育なのです。

**2) 主の訓戒** : 二つ目は「主の訓戒」ということです。このことばは「諭す、忠告する、警告する」という意味です。もちろん、このことばにも「矯正」という意味が含まれています。子どもたちに真理を教えても、子どもたちが失敗をして過ちを犯したなら、もう一度そこから彼らに戻すのですが、警告を与えておくのです。正しくない歩みをしたときには必ずこのようなことが自分の身に起こるということを…。こうして私たちは子どもたちに正しいことを教えます。そこからずれるときは正しい方向に戻して、彼らがしっかりその道を歩み続けていくように、私たちは彼らを助けていくのです。

見ていただきますと、あなたの自身の教育や訓戒とは書かれていません。残念ながら、私たちは子どもたちに対していろいろな思いを持ちます。たとえば、自分が実現できなかった夢をこの子によって叶えようと、子どもにはいい迷惑かもしれません。また、子どもが出世すれば私はこの子を自慢できると、そんなことのために私たちは子どもを育てるのではありません。人間が考える幸せを得て幸せな人生を過ごしてもらいたいと、そのようなことでもありません。ここには「主の教育と訓戒」と書かれています。

私たち親の責任は、神の教えに基づいて子どもたちを教え導いていくことです。私たちの考えではありません。ですから、私たちが自慢できる子どもではなく、神がお喜びになる、そういう子どもたちを育てていくということです。繰り返しますが、子どもたちは私たちの私物ではありません。神から託された大切な存在なのです。親は子どもたちがみことばの教えに心から従うことを喜ぶ者となるために、ときには励まし、ときには戒めながら、彼らが自分自身で正しい選択をし、主に喜ばれることを選択できるように彼らを教え導いていくのです。そして、このように歩いていくことが主の祝福を得る唯一の道なのです。主の祝福を喜び感謝しながら日々を歩いていくことができると、それが私たちが子育てにおいてしっかりと覚えておかなければならない教えで、間違ったなら、矯正して正しい道を歩むようにと導きます。それが私たちの責任だと今見て来ましたが、確かに、この聖書の中にはこの責任を果たさなかったゆえに、大変悲しい経験をした人たちのことが出て来ています。最後にそれを見て、そのことを私たちの教訓にしたいと思います。

#### ☆罪の矯正をしなかった例

1) エリ : エリという一人の祭司がいました。エリはシロという町の聖所の指導的な祭司でした。シロという町は契約の箱が保管されていたところです。そこにある聖所で大切な務めを担っていたのがエリでした。Iサムエル記2章には、実は、エリの息子たちは大変な罪人であったと書かれています。

2 : 12 - 13 「:12 さて、エリの息子たちは、よこしまな者で、【主】を知らず、:13 民にかかわる祭司の定めについてもそうであった…」、そして、2 : 22 - 25 にこのように記されています。「:22 エリは非常に年をとっていた。彼は自分の息子たちがイスラエル全体に行っていることの一部始終、それに彼らが会見の天幕の入口で仕えている女たちと寝ているということを聞いた。:23 それでエリは息子たちに言った。「なぜ、おまえたちはこんなことをするのだ。私はこの民全部から、おまえたちのした悪いことについて聞いている。:24 子たちよ。そういうことをしてはいけない。私が【主】の民の言いふらしているのを聞くそのうわさは良いものではない。:25 人がもし、ほかの人に対して罪を犯すと、神がその仲裁をしてくださる。だが、人が【主】に対

して罪を犯したら、だれが、その者のために仲裁に立とうか。」しかし、彼らは父の言うことを聞こうとしなかった。彼らを殺すことが【主】のみこころであったからである。」、

(1) 22節、エリは息子たちの悪行を聞いていた。

(2) 23-25a節、エリが息子たちにしたことはただその行為を注意しただけです。

(3) 25b節、息子たちは「父の言うことを聞こうとしなかった。」とあります。なぜ、聞こうとしなかったのか？そのように訓練して来なかったからです。放って置いたから、好きなようにさせたから、わがままにさせたからです。このエリは神から託された子どもを育てるという大切な責任を果たして来なかったのです。本来なら、エリは自分の息子たちであろうとなかろうと、罪を犯している者、神の教えに逆らっている者には、神の教えに従って彼らを扱うべきです。エリが行わないから神が行った。25節の後半に「彼らを殺すことが【主】のみこころであったからである。」とある通りです。「私の愛する息子だから…」と、とんでもない、神を愛するなら神が言われることを私たちはしなければなりません。

エリは責任者として、霊的リーダーとして神のみこころならこの息子たちを殺すこと、それを行うはずでした。もちろん、これは旧約の時代のことです。でも、エリはそれをしなかった、だから、エリに代わって神がしたのです。このような要職に就いていたこの祭司エリはすべきことをして来なかったのです。まさに、悲劇です。

2) **ダビデ** : もう一人の人物は先ほども見た「ダビデ」です。同じサムエル記ですが、第二サムエル記に書かれています。

(1) **アムノンの罪を知った** = IIサムエル記13章にこのように書かれています。13:21「ダビデ王は、事の一部始終を聞いて激しく怒った。」と。

**ダビデが知ったこと** :

・自分の長子、アムノンが律法に反して性的罪を犯した、タマルを犯したということ

これは神の教えに背くことです。レビ記18:9に「あなたの姉妹は、あなたの父の娘でも、母の娘でも、あるいは、家で生まれた女でも、外で生まれた女でも、犯してはならない。」と教えられています。

・アムノンは律法の掟を守らずに彼女を追い出した

IIサムエル13:14-17「14 しかし、アムノンは彼女の言うことを聞こうとはせず、力づくで、彼女をはずかしめて、これと寝た。:15 ところがアムノンは、ひどい憎しみにかられて、彼女をきらった。その憎しみは、彼がいただいた恋よりもひどかった。アムノンは彼女に言った。「さあ、出て行け。」、彼はタマルに恋していました。ところが、強姦の罪を犯した後、彼女に憎しみを抱くのです。つまり、アムノンはタマルを愛していなかったのです。彼が求めたのはからだだけでした。その肉欲によって彼は行動していたのです。ですから、「さあ、出て行け。」と言った後、このように続きます。「:16 彼女は言った。「それはなりません。私を追い出すなど、あなたが私にしたあのことより、なおいっそう、悪いことです。」しかし、彼は彼女の言うことを聞こうともせず、:17 召使いの若い者を呼んで言った。「この女をここから外に追い出して、戸をしめてくれ。」」、タマルの言ったことは正しかったのです。申命記22:28-29に「:28 もしある男が、まだ婚約していない処女の女を見かけ、捕らえてこれといっしょに寝て、ふたりが見つけれられた場合、:29 女と寝たその男は、この女の父に銀五十シケルを渡さなければならない。彼女は彼の妻となる。彼は彼女をはずかしめたのであるから、彼は一生、この女を離縁することはできない。」という教えが書かれています。だから、タマルはそれを知って「それはできません。」と言ったのです。アムノンは神の掟に背いて罪を犯しただけでなく、神の教えを無視して彼女を追い出したのです。

(2) **アムノンを戒めて罪を悔い改めさせなかった** = ダビデはその一部始終を知ったのです。それを知ったダビデは「事の一部始終を聞いて激しく怒った。」と書かれています。悲しいことに、彼は神の前に正しいことを行わなかったのです。なぜ、ダビデは長子であるアムノンを戒めてその罪の悔い改めをさせなかったのか？「あなたのしていることは間違っている。神の戒めにしっかり従うことだ！」となぜ父として彼を教えなかったのか？彼はただ「怒った」だけでした。

(3) **アブシャロムに対しても何もしなかった** = ダビデはまた、アブシャロムに対しても何もしていません。IIサムエル13:22「アブシャロムは、アムノンにこのことが良いとも悪いとも何も言わなかった。アブシャロムは、アムノンが妹タマルをはずかしめたことで、彼を憎んでいたからである。」、アブシャロムは自分の妹がはずかしめられたことを知ってアムノンを憎みました。どれ位の間でしよう？このことがあってから実際にアブシャロムがアムノンを殺すまでに2年間あります。ですから、2年間、この憎しみを抱いていたのです。父でありながらダビデはこのアブシャロムを諭すことがなかったのでしょうか？抱いているその憎しみは間違っていると、正しく解決するようにとどうして教えなかったのでしょうか？このアブシャロムも残念ながら、ダビデに放って置かれます。

(4) **タマルに対しても何もしなかった** = そして、もう一人はこの悲しいタマルのことです。IIサムエル13:18-20には「:18 彼女は、そでつきの長服を着ていた。昔、処女である王女たちはそのよう

な着物を着ていたからである。召使いは彼女を外に追い出して、戸をしめてしまった。:19 タマルは頭に灰をかぶり、着ていたそでつきの長服を裂き、手を頭に置いて、歩きながら声をあげて泣いていた。:20 彼女の兄アブシャロムは彼女に言った。「おまえの兄アムノンが、おまえといっしょにいたのか。だが妹よ。今は黙っていなさい。あれはおまえの兄なのだ。あのことで心配しなくてもよい。」それでタマルは、兄アブシャロムの家で、ひとりわびしく暮らしていた。」、彼女には「癒し」が必要でした。彼女は深い悲しみと絶望の中にいました。強姦されたのです。しかも、結婚について言うなら、彼女には自分を強姦したアムノン以外の男性と結婚することは許されていなかったのです。しかし、アムノンはそれを拒んで彼女を追い出したのです。彼女は全く希望もなく失意の中にいたのです。励まし、慰めが必要だったのです。しかし、彼女の父ダビデは何もしていません。

これが私たちが見る、親に託された責任をしっかりと果たさなかった者たちの姿です。この後、あの偉大なダビデも悲慘な終わりを迎えていきます。

私たちがこのように聖書の記事から教えられることは何か？私たちが気付かなければいけないことは、こうして神は私たち親に対して「わたしが託した子どもたちをわたしの「教育と訓戒によって」育てていきなさい」とこの命令を与えました。これが私たちの務めです。神の教えによって、神が託して下さった子どもたちを導いていくのです。この責任は教会に与えられていません。親にです。教会が子ども

を育てるのではありません。親が育てるのです。私たちはその責任をだれにも移譲することはできません。私たちの責任です。

このことを聞くと、ある人たちは「大変難しい！」と言うかもしれませんが、感謝なことに、神はあなたの弱さを知って必要な助けを与えてくれます。私たちがすることは、これが神の教えである以上、私はそのようにしていきたいから助けてくださいと、こうして神の助けをいただきながらこの務めを為していくのです。今子育ての中にいる皆さん、しっかり神の教えを覚えることです。そして、教えて下さった神は確実にあなたを助けてくださいます。この教えに沿っていくのです。そして、もう子育てを終えている皆さん、また、このような責任を託されていない皆さん、みことばに従って行く責任はどの家庭にあってもどのステージにあっても同じです。子育てをしようとしていまいと、子どもを託されていようといまいと、私たちの責任は神の教えに従って行くことです。

なぜ、こんな大変な社会にあって、「子どもたちよ、両親に従いなさい、敬いなさい」、両親には「子どもたちを怒らせてはいけない」、「子どもたちを主の訓戒と教育によって育てなさい」と…、そんなことは難しくて無理だと言いますか？神がしてくださいます。「主よ、私はこのように生きていきたい」とその決心をもって助けをくださる神にしっかりと助けを仰いでください。確実に、神はあなたを使ってくださいます。私たちが望むことは、私たちの家庭が神によって豊かに祝された家庭になることです。

そのためにはまず、あなた自身が主のみことばに従うこと、主の祝福をいただくにふさわしい者に変えられることです。